

平成26年1月24日

中津川市長 青山節児様

中津川市総合計画審議会
会長 大西健夫

中津川市総合計画「基本構想」について（答申）

平成25年7月12日付け中企財第21号をもって諮問のありました中津川市総合計画「基本構想」につきまして、当審議会において総合計画策定方針に基づき慎重かつ活発なる審議をした結果、別紙のとおり答申いたします。

答申

はじめに

中津川市においては、新中津川市総合計画基本構想（平成１７年度～平成２６年度）が実施過程にあり、また、平成２５年８月には「中津川市リニアのまちづくりビジョン」を公表されました。

新中津川市総合計画基本構想におきましては、新中津川市発足に向けての合併協議においてのまちづくり計画である「新市建設計画」を基礎として、新市のまちづくり理念を「多様性のなかの統一」とし、それぞれの地域が互いにその個性（多様性）を認めあいながら、それぞれの持てる力を合わせて統一的に行動することによって活力を増し、市民の不安や懸念を解消することを目指すことを基本理念とし、「豊かな自然と独自の歴史・文化が光るいきいきとしたふるさと中津川」を将来都市像としております。

中津川市リニアのまちづくりビジョンにおきましては、人口減少、少子高齢化の進展のなか、千載一遇のチャンスであるリニア開業をまちづくりに活かし、持続的に発展する中津川をつくることを目指し、「日本の真ん中 訪ねてよし 住んでよし」を理念として「リニアのホームタウン水と緑の“なかつがわ”」を基本理念としております。

中津川市は、地域の個性を互いに認め合いながら共生（統一的に行動）することがまちの活力を増すことにつながるという理念のもとに、リニア開業とリニア中央新幹線岐阜県駅が中津川市を広域的に扇の要の位置に据えるという地理的・地政学的条件を千載一遇のチャンスとして捉えて持続的に発展する中津川のまちづくりに活かすことが求められています。

中津川市は、共生の理念を広域的に広げ、開かれたまちづくりをすすめることで、市内各地域の、さらには、広域的な活性化に寄与する役割が与えられています。また、開かれたまちづくりを進めることが、本審議会の３部会で活発に論議された将来都市像を実現させるものであります。

1. 基本理念

当市は、中山道の馬籠宿、落合宿、中津川宿の三宿があるまちとして、古くから交通の要衝として発展してきました。多くの人々が行き交うことで、情報が集積、発信され街道文化が発展し今日を迎えています。

当市には、リニア中央新幹線岐阜県駅、車両基地及び工場が設置されることになりました。新たな時代の交通の要衝、産業拠点のまちとしての期待が膨らんでいます。

平成 27 年度から平成 39 年のリニア開業までは、この期待に応えられるまちづくりを行ううえで極めて重要な時期であり、その取り組みにあたって、市民の総力を結集することはもちろんのこと、他の自治体との連携を強力に推し進め広域連携の要として、更なる情報集積に努め、内外に積極的に情報発信がなされる「開かれたまち」となることが欠かせません。

そのうえで、以下の 4 つのことを基本的なまちづくりの方針として、平成 27 年度からスタートする総合計画基本構想を作成し、まちづくりに取り組むべきと考えます。

- (1) 美しい景観に囲まれ 活気あふれるまち なかつがわ
- (2) 水・緑・人が輝く活気に満ちたまち なかつがわ
- (3) 多くの子どもたちがたくましく育ち 夢あるまち なかつがわ
- (4) みんなで安心して いきいき暮らせるまち なかつがわ

これら 4 つの方針は、中津川市らしさという当市の魅力をさらに伸ばすものであり、当市の一層の発展をもたらすものと考えます。

2. 将来都市像

将来都市像のキャッチフレーズ

「かがやく人々 やすらげる自然 活気あふれる中津川」 に基づく、
中津川市がめざすまち

(1) 美しい景観に囲まれ 活気あふれるまち なかつがわ（産業）

市内企業は経営規模が拡大し、新たな企業の進出や起業により若者が働く場所が多くあり、当市で育った若者が市内にとどまってくれる、市外からも若者がきてくれて活気がある。また、農林業の後継者がしっかり確保され、田園や森林の美しい景観が保たれている。美しい景観が保たれていることで観光振興にもつながり、中津川市ならではのものを目当てに多くの観光客が訪れ、当市の顔である中心市街地がにぎわっている。

すなわち、

～美しい自然はそのままに、さまざまな人や企業、それらと一緒に知識・技術や情報などが集まってきてにぎわいがあるイメージ～

(2) 水・緑・人が輝く活気に満ちたまち なかつがわ（防災・環境）

美しい自然がしっかりと守られ活用されていて、再生可能エネルギーの活用やごみの資源化など地球環境にやさしい取り組みがなされおり、そんな環境の中で、災害への備えも行き届いていて、市民活動や地域コミュニティの活動が活発で、いきいきと暮らすことができる。

すなわち、

～美しい自然に囲まれ、人々が安心していきいきと地域で活躍していて、活気に満ちたイメージ～

(3) 多くの子どもたちがたくましく育ち 夢あるまち なかつがわ（教育・文化スポーツ）

将来を担う子どもたちが減ってしまうことなく、学校生活などや地域で勉強やスポーツを通じてたくましく、しっかりと自立した若者に育っている。その若者が地域において当市の伝統や文化をしっかりと守り、引き継いでいってくれる。

すなわち、

～多くの子どもたちが、頼りになる若者として育ち、地域の伝統芸能などの文化をしっかりと守り盛んにし、地域に活力があるイメージ～

(4) みんなで安心して いきいき暮らせるまち なかつがわ(福祉・医療)

子どもからお年寄りまでみんなが健康で、病気になった場合でも医療サービスをしっかりと受けることができ、お年寄りや障がい者が安心していきいきと心豊かに暮らすことができる。

すなわち、

～子どもからお年寄りまで、すべての人が安心していきいきと暮らしていて、心豊かな開かれたイメージ～

～年齢や健康状態、障がいの有無にかかわらず、だれもが安心して地域でいきいきと暮らしていて、心豊かなイメージ～

3. 分野別施策の体系

(1) 美しい景観に囲まれ 活気あふれるまち なかつがわ（産業）

○製造業振興

地域産業の振興に取り組むとともに、既存企業が行う開発や新たな業態へのチャレンジに対する支援、市外企業との繋がりづくりなどリニアに関連した企業誘致活動の強化、初期投資に対する支援など起業を促すための土壌づくりに取り組みます。

○農林業振興

集落営農組織の育成支援、ブランド力強化など農地の集積と担い手の確保や産業間の連携を図りつつ、東濃ひのきのブランドを活かした産直住宅建築に対する支援や森林の境界明確化による間伐等の促進、里山整備も含めた当市独自の農業振興モデル地区を設けるなど農地や森林が作り出す美しい景観を整備する観点からもその保全に取り組みます。

○観光振興

体験型観光のための観光商品の開発など観光資源の発掘や開発、PRに取り組むとともに、観光資源の連携による広域観光に取り組みます。

○商業振興

中心市街地活性化のための公共施設の活用などによる商店街活性化の支援に取り組むとともに、周辺地域においてはコミュニティ維持のための商業振興に取り組みます。

また、さまざまな機会をとらえて中津川市を全国に売り込むなどリニア開通による観光客誘致や道路整備など中心市街地への誘客に取り組めます。

○移住・定住推進

市外へ出て行ってしまった人のネットワークを作り、市外から見た中津川市のあり方への助言・提言をしていただくなど「故郷との絆」づくりに取り組みます。

また、転入された人が地域になじみやすい雰囲気づくりの啓発に取り組めます。

市外から見て魅力のある安心して生活ができるような住環境の整備や地域に根差した特色ある事業所の育成など未来型産業の振興などに取り組めます。

(2) 水・緑・人が輝く活気に満ちたまち なかつがわ (防災・環境)

○防災・災害対策

行政・自主防災組織・消防団の連携により、土砂災害のハザードマップを活用するなど災害危険個所の情報共有化に努め、防災士の育成などにより地域の防災力の向上に取り組めます。

また、災害時要援護者の台帳登録をしてもらうための啓発など避難対策の強化や大規模な地震に備え、住宅の耐震診断、耐震補強や家具転倒防止などに対する支援や橋梁の耐震化など被害を少しでも小さくするための減災に取り組めます。

○防犯対策

条例等の法制度に基づく空き家、空き店舗対策に取り組めます。

○自然環境保全

当市の自然環境に関する基礎データの構築を行い、希少な動植物の保護を行うなど当市の美しい自然を守るとともに、計画的な森林整備などさらに磨きをかける取り組みを進め、観光資源、環境学習、防災機能など多面的な活用ができるようにします。

小水力発電の推進や木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入に取り組めます。

ごみの資源化・減量化に向けた啓発やPR活動、収集から処分までの効率化を図り、新衛生センターなどの施設整備などに取り組めます。

○市民活動・地域コミュニティ

地域自治組織の人材育成のための学習会の実施や若者の参画促進支援など自治会組織の活性化、市民活動情報の提供や研修機会の提供、団体間の交流促進のコーディネートを行う組織の立ち上げなど市民活動の普及や人材育成、ネットワークづくりに取り組めます。

○地域公共交通

運送事業者との役割分担を明確にし、路線バス、コミュニティバス、ボランティア輸送など複数の交通手段による交通空白地を解消し、高齢者などの移動手段の確保に取り組めます。

(3) 多くの子どもたちがたくましく育ち 夢あるまち なかつがわ（教育・文化スポーツ）

○少子化・子育て支援

妊婦健診、特定不妊治療など安全な妊娠、出産の支援、子どもの健康診査の実施など子どもの健やかな成長発達支援、放課後児童クラブの運営支援など子どもたちが放課後安心安全に過ごすことができる居場所づくりの充実に取り組みます。

○乳幼児教育・学校教育

幼児教育において、保護者のニーズ把握に努め子育て支援の体制や施設づくりを進めるなど幼稚園、保育園の子育て支援機能を充実させるとともに、民間にできるところは移行し、障がい児保育など公立が担うべきところはしっかりと公立でという機能分担や公立・民間の一層の連携を進めます。

また、モデル地区を設けて幼・保・小の連携事業を行っており、検証を踏まえ全市的な取り組みとするなど幼稚園、保育園から小学校へのスムーズな適応が図れるようにします。「学力アッププログラム」ではPTAとの連携を深め家庭への啓発に努めるとともに、内容の改善にも努めます。

○文化振興

文化を育む人材育成、伝統芸能の伝承教室へのさらなる支援など伝統芸能活動の後継者育成を支援するとともに、地域の魅力を高める資源として保護、活用します。

○生涯学習

社会教育部門と教育委員会が連携したすべての親を対象にした家庭教育支援、妊娠期から学童期までそれぞれの時期に応じた家庭教育支援に取り組みます。地域づくり型生涯学習を推進するため市民をリードしていく人材の育成など生涯学習活動への参加を高めます。

○スポーツ振興

スポーツの楽しさや素晴らしさを実感できるトップアスリートなどによる指導機会の充実など子どもスポーツ活動の推進や、健康福祉関係部署や団体との連携など健康増進としてのスポーツ活動の推進、障がい者のスポーツ活動の充実、総合型地域スポーツクラブの支援などスポーツを通じた地域コミュニティの構築に取り組みます。

(4) みんなで安心して いきいき暮らせるまち なかつがわ（福祉・医療）

○地域医療

健康づくりに取り組む関係機関、団体との連携強化やがん検診・健康診断の受診率向上、保健指導の徹底など健康づくりの支援に取り組むとともに、医療機関の役割分担と連携の推進、地域包括ケアシステムの構築など市民が必要とする医療サービスなどを将来にわたって確保します。

○公立病院

大学、医局などの教育・研究・研修のフィールドを提供するなどして、医療スタッフを確保します。

また、市内にある二つの病院の効率的な機能分化を明確にするなど、両病院の役割分担の明確化と連携に取り組みます。

○高齢者福祉

若年期からの生活習慣病予防などの健康づくりや、老人クラブ・シルバー人材センターの支援など高齢者の生きがいづくりを支援します。

また見守り支援やボランティアの育成など地域の見守り、在宅支援の充実に取り組みます。

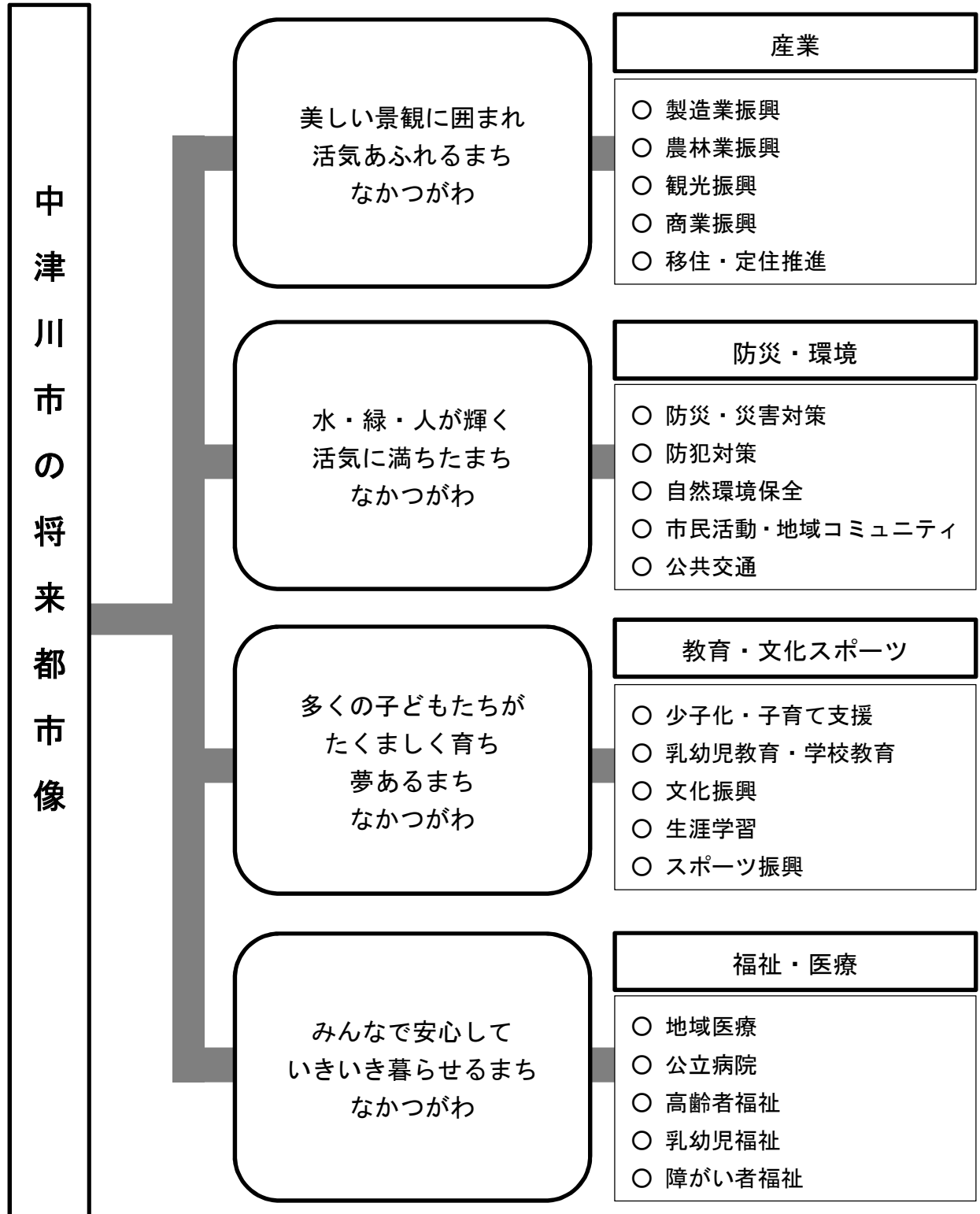
○乳幼児福祉

発達相談支援専門員の資格者育成を長期的に行うなど人材確保に取り組むとともに、発達相談室に相談支援事業所の役割を組み入れサービスのワンストップ化を図ります。

○障がい者福祉

重度障害者を受け入れる施設の整備、障がい者に対する理解を深めてもらう交流機会などを充実し、地域との協働・ボランティアの育成など障がい者が住み慣れた地域で暮らすことのできる環境づくりに取り組みます。

4. 基本構想の体系図



むすび

～総合計画基本構想の実施に向けて～

総合計画基本構想はまちづくりの総合的な基本方針を示すもので、計画的なまちづくりを進めるうえでとても大切なものと認識しており、当審議会は5度の部会、4度の審議会を開催し、審議を尽くして答申をまとめました。本答申を踏まえ基本構想を策定していただけるものと考えています。

当審議会では、総合計画基本構想に基づく計画的なまちづくりを進めるにあたって、市が行政改革に取り組み健全財政を確保すること、行政が果たす役割を明確にするとともに、市民や企業と協力してまちづくりに取り組むこと、広域的課題については県や周辺自治体などと連携を取りながら進めること、市民による評価をいただくなどして総合計画の進捗管理を行うこと、情報開示に努めるなど政策決定にあたって透明性を確保することが肝要であると考えます。

おわりに、この度策定される基本構想を着実に実行していただき、計画の終了時である平成38年には、当市の描く将来都市像が実現されていることを願います。

添付文書一覧

1. 産業部会の考える将来都市像
2. 防災・環境部会の考える将来都市像
3. 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の考える将来都市像
4. 産業部会が考える分野別施策に関する意見書
5. 防災・環境部会が考える分野別施策に関する意見書
6. 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会が考える分野別施策に関する意見書
7. 基本構想の骨子案

参考資料一覧

1. 各団体等が考える将来都市像
2. 新中津川市総合計画 基本構想 (平成17年度～平成26年度)
3. 中津川市リニアまちづくりビジョン (平成25年8月)
4. 中津川市総合計画基本構想 (平成17年度～平成26年度) 平成24年度末評価
5. 次期総合計画 (平成27年度～平成38年度) 策定に向けた行政の考える現状・課題・取り組み方針 (案)
6. まちづくり市民アンケート結果
7. グループインタビュー意見
8. H17・H24 人口動態の推移
9. 中津川市 地区別人口の推計
10. 年齢別人口推計
11. 24年度版中津川市統計書
12. 恵那市総合計画
13. 瑞浪市総合計画
(産業部会参考資料)
14. 中津川市過疎地域自立促進計画書
15. 中津川市辺地総合整備計画書
16. 中津川市山村振興計画書
17. 明知鉄道沿線地域公共交通総合連携計画の概要
18. なかつがわ男女共同参画プラン
19. 転入者のうち、本籍が中津川市の者の数
20. 職業上の理由による転入出の推移
21. 移住者人数

- 22. 年度別求人・求職・充足・状況（高校）
- 23. 中津川市農業振興ビジョン
- 24. 中津川市林業振興ビジョン
- 25. 中津川市景観計画
- 26. 中津川市観光ガイドマップ
- 27. 岐阜中津川小旅手帖
- 28. 特産通信
- 29. 中津川市中心市街地活性化計画書
（防災・環境部会参考資料）
- 30. 第9次中津川市交通安全計画
- 31. 中津川市人権施策推進指針
- 32. 中津川市災害に強いまちづくり計画
- 33. 中津川市安全安心まちづくり基本計画
- 34. 新中津川市環境基本計画
- 35. 中津川市地球温暖化防止対策地域推進計画
- 36. 中津川小水力発電開発基本構想
- 37. 中津川市地域新エネルギービジョン
- 38. 中津川市省エネ節電計画
- 39. 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画
- 40. 災害廃棄物処理基本計画
（教育・文化スポーツ・福祉・医療部会参考資料）
- 41. 国史跡苗木城跡ふるさと歴史の広場整備基本構想
- 42. 苗木城跡整備基本構想
- 43. 苗木城跡保存管理計画
- 44. 中津川市子ども読書活動推進計画
- 45. 中津川市公立病院改革プラン
- 46. 地域医療を守るための青写真
- 47. 中津川市民病院中長期計画

審議過程

開催日	会議名	議題
H25.7.12	第1回審議会	委嘱・諮問・会長、副会長選出 (1) 会議の公開等について (2) 中津川市総合計画審議会の代理出席に関する要綱の制定について (3) 新総合計画の策定方針について (4) 策定スケジュールについて (5) 市民の意見収集について ①市民アンケート ②グループインタビュー (6) 部会について (7) 今後の会議の進め方について
H25.8.21	第1回産業部会	1. 審議会の位置付け 2. 委員・部会の位置付け 3. 部会の作業 4. 部会長・副部会長の役割 5. 事務局の位置付け
H25.8.22	第1回防災・環境部会	
H25.8.23	第1回教育・文化スポーツ・福祉・医療部会	
H25.9.11	第2回産業部会	1. 市民アンケートの中間集計の報告 2. 将来都市像について (1) 委員の所見表明 (2) 意見交換 3. 今後の部会運営について
H25.9.13	第2回防災・環境部会	
H25.9.13	第2回教育・文化スポーツ・福祉・医療部会	
H25.10.3	第3回産業部会	1. 行政からの提出資料の審議 2. 将来都市像のまとめ方について 3. 今後の部会運営について 4. その他
H25.10.11	第3回教育・文化スポーツ・福祉・医療部会	1. 行政からの提出資料の審議 2. 将来都市像のまとめ方について 3. 今後の部会運営について
H25.10.15	第3回防災・環境部会	1. 行政からの提出資料の審議 2. 将来都市像のまとめ方について 3. 今後の部会運営について 4. その他
H25.10.21	第4回産業部会	1. 第3回産業部会の意見の取りまとめについて 2. 産業部会の考える将来都市像について 3. 今後の取り組み方針について 4. その他
H25.10.28	第4回防災・環境部会	1. 各委員から提出された資料について 2. 防災・環境部会の考える将来都市像について 3. 今後の取り組み方針について 4. その他
H25.10.31	第4回教育・文化スポーツ・福祉・医療部会	1. 第3回教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の意見の取りまとめについて 2. 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の考える将来都市像について 3. 今後の取り組み方針について 4. その他

開催日	会議名	議題
H25.11.18	第5回産業部会	市民アンケート・グループインタビュー意見の報告 1. 10月31日開催の「三役・部会長・副部会長会議」の報告 2. 基本構想原案についての検討 (1) 基本構想の骨子案について (2) 産業部会が考える分野別施策に関する意見書(案)について 3. その他
H25.11.21	第5回防災・環境部会	市民アンケート・グループインタビュー意見の報告 1. 10月31日開催の「三役・部会長・副部会長会議」の報告 2. 基本構想原案についての検討 (1) 基本構想の骨子案について (2) 防災・環境部会が考える分野別施策に関する意見書(案)について 3. その他
H25.12.2	第5回教育・文化スポーツ・福祉・医療部会	市民アンケート・グループインタビュー意見の報告 1. 10月31日開催の「三役・部会長・副部会長会議」の報告 2. 基本構想原案についての検討 (1) 基本構想の骨子案について (2) 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会が考える分野別施策に関する意見書(案)について 3. その他
H25.12.10	第2回審議会	(1) 総合計画基本構想理念について (2) 総合計画基本構想答申の形態について
H26.1.14	第3回審議会	(1) ①部会の考える将来都市像 ②基本構想の骨子案 ③総合計画基本構想政策の分野別体系 (2) 総合計画基本構想基本理念 (3) 総合計画基本構想答申の形態 ①構成 ②将来都市像キャッチフレーズ (4) その他
H26.1.24	第4回審議会	総合計画基本構想答申(案)

産業部会の考える将来都市像

平成 25 年 10 月 21 日
産業部会長 岡山 金平

将来都市像は、「美しい景観に囲まれ 活気あふれるまち なかつがわ」です。

1. あるべき姿

市内企業は経営規模が拡大し、新たな企業の進出や起業により若者が働く場所が多くあり、当市で育った若者が市内にとどまってくれる、市外からも若者がきてくれて活気があること。また、農林業の後継者がしっかり確保され、田園や森林の美しい景観が保たれていること。美しい景観が保たれていることで観光振興にもつながり、中津川市ならではのものを目当てに多くの観光客が訪れ、当市の顔である中心市街地がにぎわっていることです。

すなわち、～美しい自然はそのままに、さまざまな人や企業、それらと一緒に知識・技術や情報などが集まってきてにぎわいがあるイメージ～

2. 現状と課題

現在、中津川市では、旧市部において製造業が、恵北地区においては農林業が主な産業として展開されています。

製造業は、電気機械器具、自動車関連などが中心で、平成 22 年の製造品出荷額等は 3,066 億円で県内第 4 位の額です。しかし、中小企業が多く営業や開発、新分野へのチャレンジに力を割くことがなかなかできないとか、また、納入先の手大企業の影響を受けやすく、経営の安定化や経営基盤の強化を図ることが課題となっています。

農林業では、夏秋トマトに代表される農産物や飛騨牛、東濃ひのきが生産されています。しかし、効率的、安定的経営を行うことが困難で後継者不足や耕作放棄などによる農地の荒廃が進んでおり、間伐などの手入れの行き届かない森林が増えています。後継者を確保できる経営基盤の強化や農地、森林が持つ多機能性の観点からいかに農地、森林を守っていくかが課題となっています。

また、観光では馬籠宿をはじめ落合宿、中津川宿があり歴史的な街並みや街道文化が色濃く残っています。そして栗きんとんをはじめとする和菓子のまちとして知られています。しかし、観光の素材は沢山あるものの活かしきれておらず、観光資源を一層魅力的なものにするとともに、広域連携して多くの観光客が市内にゆっくりと留まってくれるようにすることが課題となっています。

また、当市の顔である中心市街地では、お客さんの減少による後継者不足から空洞化が進んでいます。街なかに多くのお客さんが訪れ、にぎわいを作り出すことが課題となっています。

さらには、人口減少に歯止めがかからず市外へ転出する人数が市内に転入してくる人数を上回っている状態が続いています。行政の姿勢も待ちの状態で十分な分析、対応が

できていません。また当市の各地域はまとまりが良いということが、かえって新しく入ってくる人には地域になじみづらいという面もあり、新たな人がなじみやすい雰囲気をつくり、転入しやすい環境をつくることが課題となっています。また、リニア駅や車両基地が建設されるという千載一遇のチャンスをしっかり活かし、産業全般の活性化を図り市外への人口流出を食い止めるとともに、市外から働き手である若者を中心に多くの人が流入してくる環境、つまり当市に住んでみたいという環境を作り出すことが課題となっています。

(参考)

アンケート調査でも当市は、働く環境として魅力を感じるかの問いに「いいえ」と答えた理由で一番多いのが「働くところ、企業が少ない」との回答です。また同アンケートにおいて、満足度が低くて、取り組む必要性が高いと答えた項目では、企業立地・雇用対策が挙げられています。また満足度が低い項目として商業振興、中心市街地活性化や林業振興など産業振興の項目が上がっています。

3. 課題解決に向けた取り組み

製造業では、地域産業の振興に取り組むとともに、既存企業が行う開発や新たな業態へのチャレンジに対する支援、市外企業との繋がりづくりなどリニアに関連した企業誘致活動の強化、初期投資に対する支援など起業を促すための土壌づくりに取り組みます。

農林業では、集落営農組織の育成支援、ブランド力強化など農地の集積と担い手の確保や産業間の連携を図りつつ、東濃ひのきのブランドを活かした産直住宅建築に対する支援や森林の境界明確化による間伐等の促進、里山整備も含めた当市独自の農業振興モデル地区を設けるなど農地や森林が作り出す美しい景観を整備する観点からもその保全に取り組みます。

観光では、体験型観光のための観光商品の開発など観光資源の発掘や開発、PRに取り組むとともに、観光資源の連携による広域観光に取り組みます。

中心市街地活性化のための公共施設の活用などによる商店街活性化の支援に取り組むとともに、周辺地域においてはコミュニティ維持のための商業振興に取り組みます。

また、さまざまな機会をとらえて中津川市を全国に売り込むなどリニア開通による観光客誘致や道路整備など中心市街地への誘客に取り組みます。

移住・定住では、市外へ出て行ってしまった人のネットワークを作り、市外から見た中津川市のあり方への助言・提言をしていただくなど「故郷との絆」づくりに取り組みます。

また、転入された人が地域になじみやすい雰囲気づくりの啓発に取り組みます。

市外から見て魅力のある安心して生活ができるような住環境の整備や地域に根差した特色ある事業所の育成など未来型産業の振興などに取り組みます。

防災・環境部会の考える将来都市像

平成 25 年 10 月 31 日

防災・環境部会長 丸山 充信

将来都市像は、「水・緑・人が輝く活気に満ちたまち なかつがわ」です。

1. あるべき姿

美しい自然がしっかりと守られ活用されていて、再生可能エネルギーの活用やごみの資源化など地球環境にやさしい取り組みがなされおり、そんな環境の中で、災害への備えも行き届いていて、市民活動や地域コミュニティの活動が活発で、いきいきと暮らすことができる。

すなわち、～美しい自然に囲まれ、人々が安心していきいきと地域で活躍していて、活気に満ちたイメージ～

2. 現状と課題

防災・災害対策では、国内で地球温暖化等によりゲリラ豪雨が多発しています。当市は、恵那山系をはじめ、風化花崗岩の山腹崩壊が発生しており、土石流災害から生命、財産を守ることが課題です。また阿寺断層があり東海、東南海地震が発生した場合、大きな被害が予想され、いかに被害を小さくするかが課題です。災害時要援護者の対象者は約 12,000 人ですが、要援護者として台帳登録している方は、平成 25 年 8 月現在 1,430 人で、登録者を増やしていくことが課題です。また、住宅の耐震性が不十分なものは、約 10,220 棟あり耐震化を進めることが課題です。

防犯対策では各地域で空き家、空き店舗が増えてきており、犯罪の温床となったり老朽化して倒壊による危険にどう対処していくかが課題です。

自然環境保全では、当市は市域の約 80%が森林で、その中に湿地帯が点在し付知川に代表される清流があり、シデコブシなど希少な植物の宝庫です。しかし、市はそのデータをもっておらず、データベースを作成するなどして希少植物をはじめ豊かな自然をしっかりと守っていくことが課題です。

再生可能エネルギーでは、環境にやさしいエネルギーの活用は全国的な課題であり、当市の急峻な地形と豊富な水量を活用した小水力発電や間伐材を活用した木質バイオマスの導入が考えられるが、水利権や採算性といった課題があります。

ごみ、し尿対策では、環境センターに持ち込まれるごみの量は、平成 22 年度 24,853 トン、平成 23 年度 25,401 トン、平成 24 年度 26,015 トンと増加傾向にあり減量化、資源化を進めることが課題です。し尿収集量は、下水道、合併浄化槽の普及により年 10% 減少しています。しかし中津川衛生センターは、供用開始後 50 年近くが経過し老朽化が著しく、恵北衛生センターは、操業期間の延長について平成 25 年度から 5 年間延長することで地元の理解を取り付けたが 5 年後どうするのか、また収集、運搬の費用は大きいままであり、施設と収集・搬入を一体として効率化するとともに安定した稼働を確

保することが課題です。

市民活動・地域コミュニティでは、少子高齢化の中で地域自治組織の高齢化や活動する人が不足しており、地域活動を担う人材育成や若者の参加、小規模な活動団体が多くネットワーク化などが課題となっています。

公共交通では、利用者の減少が路線バスの便数削減や路線廃止につながっており、コミュニティバスなどを導入しているが、運送事業者との競合、地域間格差が発生しており、地域の高齢者の買い物や受診のための移動手段を確保することが課題です。

(参考)

アンケート調査でも当市は、暮らしやすいと思いますか、誇りや愛着を感じるか、住み続けたいと思うかの問いに「はい」と答えた理由で多いのが「自然・環境のよさ」です。また同アンケートにおいて、取り組む必要性が高いと答えた項目では、地域の防災対策や交通安全・防犯・消費者行政、救急・消防体制が挙げられています。

3. 課題解決に向けた取り組み

防災・災害対策では、行政・自主防災組織・消防団の連携により、土砂災害のハザードマップを活用するなど災害危険個所の情報共有化に努め、防災士の育成などにより地域の防災力の向上に取り組めます。また、災害時要援護者の台帳登録をしてもらうための啓発など避難対策の強化や大規模な地震に備え、住宅の耐震診断、耐震補強や家具転倒防止などに対する支援や橋梁の耐震化など被害を少しでも小さくするための減災に取り組めます。

防犯対策では、条例等の法制度に基づく空き家、空き店舗対策に取り組めます。

環境では、当市の自然環境に関する基礎データの構築を行い、希少な動植物の保護を行うなど当市の美しい自然を守るとともに、計画的な森林整備などさらに磨きをかける取り組みを進め、観光資源、環境学習、防災機能など多面的な活用ができるようにします。また、小水力発電の推進や木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入に取り組めます。ごみの資源化・減量化に向けた啓発やPR活動、収集から処分までの効率化を図り、新衛生センターなどの施設整備などに取り組めます。

市民活動、地域コミュニティでは、地域自治組織の人材育成のための学習会の実施や若者の参画促進支援など自治会組織の活性化、市民活動情報の提供や研修機会の提供、団体間の交流促進のコーディネートを行う組織の立ち上げなど市民活動の普及や人材育成、ネットワークづくりに取り組めます。

地域公共交通では、運送事業者との役割分担を明確にし、路線バス、コミュニティバス、ボランティア輸送など複数の交通手段による交通空白地を解消し、高齢者などの移動手段の確保に取り組めます。

教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の考える将来都市像

平成 25 年 10 月 31 日

教育・文化スポーツ・福祉・医療部会長 加藤 出

本部会のテーマは、担当分野が広いので、二つに分けて将来都市像を考え、そのうえで部会としての一つの将来都市像を導き出すことにいたしました。

◎将来都市像「子どもたちがたくましく育ち 誰もが安心していきいきと心豊かに暮らせるまち なかつがわ」

○あるべき姿

子どもからお年寄りまでみんなが安心していきいきと心豊かに暮らすことができ、子どもたちがたくましく育ち伝統・文化を引き継ぎ盛んにし活気がある。

◎ 生涯学習、スポーツ振興、国際交流、乳幼児教育、学校教育、文化振興、歴史・伝統芸能、少子化対策、子育て支援分野の将来都市像
「多くの子どもたちがたくましく育ち 夢あるまち なかつがわ」

○あるべき姿

将来を担う子どもたちが減ってしまうことなく、学校生活などや地域で勉強やスポーツを通じてたくましく、しっかりと自立した若者に育つこと。その若者が地域において当市の伝統や文化をしっかりと守り、引き継いでいってくれることです。

すなわち、多くの子どもたちが、頼りになる若者として育ち、地域の伝統芸能などの文化をしっかりと守り盛んにし、地域に活力があるイメージ

◎ 地域医療、公立病院、高齢者福祉、乳幼児福祉、障がい者福祉分野の将来都市像
「みんなで安心して、いきいき暮らせるまち なかつがわ」

○あるべき姿

子どもからお年寄りまでみんなが健康で、病気になった場合でも医療サービスをしっかりと受けることができ、お年寄りや障がい者が住み慣れた地域で安心していきいきと心豊かに暮らすことができるまち

教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の考える将来都市像

(生涯学習、スポーツ振興、国際交流、乳幼児教育、学校教育、文化振興、歴史・伝統芸能、少子化対策、子育て支援分野)

平成 25 年 10 月 31 日

教育・文化スポーツ・福祉・医療部会長 加藤 出

本部会のテーマは、担当分野が広いので、二つに分けて将来都市像を考え、そのうえで部会としての一つの将来都市像を導き出すことにいたしました。

一つ目の分野は、生涯学習、スポーツ振興、国際交流、乳幼児教育、学校教育、文化振興、歴史・伝統芸能、少子化対策、子育て支援です。

将来都市像は、「多くの子どもたちがたくましく育ち 夢あるまち なかつがわ」です。

1. あるべき姿

将来を担う子どもたちが減ってしまうことなく、学校生活などや地域で勉強やスポーツを通じてたくましく、しっかりと自立した若者に育つこと。その若者が地域において当市の伝統や文化をしっかりと守り、引き継いでいってくれることです。

すなわち、～多くの子どもたちが、頼りになる若者として育ち、地域の伝統芸能などの文化をしっかりと守り盛んにし、地域に活力があるイメージ～

2. 現状と課題

少子化・子育て支援では、出生数、年少人口は減少しており、核家族は増加しています。市の調べでは、平成 17 年の出生数は、714 人でしたが、平成 24 年は 626 人と 88 人減少しており、12.3%の減少です。0 歳から 14 歳までの年少人口は、国勢調査で平成 17 年は 12,100 人でしたが、平成 22 年は 11,086 人と 1,014 人減少しており、8.4%の減少です。核家族は、国勢調査で平成 17 年は 14,972 世帯でしたが、平成 22 年は 15,106 人と 134 世帯増加しており、0.9%の増加です。いかに安心して子どもを産み育てる環境を整備できるか、結婚・出産・子育てなど子どもの成長に合わせた支援を連続してどう行うかが課題です

教育では、平成 25 年度当初の幼稚園は 10 園で園児数は 813 人、保育園は 23 園で園児数は 1,632 人、小学校は 19 校で生徒数は 4,429 人、中学校は 12 校で生徒数は 2,393 人です。「子どもは未来の中津川のまちづくり人」という理念に立ち、心身ともにたくましい子の育成を目指し、0 歳から 15 歳までのつながりを大切にした教育に努めています。しかし、核家族化・共働き世帯の増加により家庭での保育が困難な世帯や未満児保育へのニーズが増えてきており、幼稚園、保育園に子育て支援拠点の機能を充実させる

こと、公立園と私立園との一層の連携が課題です。また幼稚園、保育園から小学校に上がった際に環境の変化にとまどったり、なじめない児童がおり、スムーズな適応を図れるようにすることが課題です。基礎学力の向上では、家庭学習の重要性の認識が各家庭によって大きく異なっており、家庭における認識度を高めていくことが課題です。

文化では、当市は中山道の宿場町として、多くの人の行き来により街道文化が栄えてきました。明治座、常盤座など芝居小屋があり地歌舞伎が盛んで、絵画では前田青邨、熊谷守一、文学では島崎藤村を輩出し、文化では話題に事欠かないまちです。しかし、少子高齢化の進展などによる文化・芸術活動や伝統芸能活動の後継者不足、また市民の価値観の多様化などによる伝統芸能への関心の低下、活動の停滞が懸念され子どものころから文化・芸術、伝統芸能に親しみ学ぶ機会を充実することが課題です。

生涯学習では、核家族化、地域におけるつながりの希薄化が進み、家庭教育の低下や地域社会での孤立化が増えてきており、家庭教育の支援や生涯学習活動への参加を高めることが課題となっています。

スポーツでは、スポーツ施設利用者は平成 24 年度で延べ約 52 万人で平成 20 年度に比べ約 6 万人の減、スポーツ指導者登録数は、平成 24 年度 228 名で平成 17 年度に比べ 52 名の減です。少子化の影響でスポーツ少年団員数が減少するなど子どもたちのスポーツ離れが進んでおり、スポーツの良さや価値を実感できる機会を充実したり、高齢化による健康増進としてのスポーツ活動や、障がい者が楽しく生活するためのスポーツ活動の普及が課題です。

(参考)

アンケート調査では、幼児教育、小中学校の教育、生涯学習・人材育成、歴史文化振興・伝統芸能継承は、満足度、必要度ともに大体中間にあります。

3. 課題解決に向けた取り組み

少子化・子育て支援では、妊婦健診、特定不妊治療など安全な妊娠、出産の支援、子どもの健康診査の実施など子どもの健やかな成長発達支援、放課後児童クラブの運営支援など子どもたちが放課後安心安全に過ごすことができる居場所づくりの充実に取り組みます。

教育では、幼児教育において、保護者のニーズ把握に努め子育て支援の体制や施設づくりを進めるなど幼稚園、保育園の子育て支援機能を充実させるとともに、民間にできるところは移行し、障がい児保育など公立が担うべきところはしっかりと公立でという機能分担や公立・民間の一層の連携を進めます。また、モデル地区を設けて幼・保・小の連携事業を行っており、検証を踏まえ全市的な取り組みとするなど幼稚園、保育園から小学校へのスムーズな適応を図れるようにします。「学力アッププログラム」では P T A との連携を深め家庭への啓発に努めるとともに、内容の改善にも努めます。

文化では、文化を育む人材育成、伝統芸能の伝承教室へのさらなる支援など伝統芸能活動の後継者育成を支援するとともに、地域の魅力を高める資源として保護、活用しま

す。

生涯学習では、社会教育部門と教育委員会が連携したすべての親を対象にした家庭教育支援、妊娠期から学童期までそれぞれの時期に応じた家庭教育支援に取り組みます。地域づくり型生涯学習を推進するため市民をリードしていく人材の育成など生涯学習活動への参加を高めます。

スポーツでは、スポーツの楽しさや素晴らしさを実感できるトップアスリートなどによる指導機会の充実など子どもスポーツ活動の推進や、健康福祉関係部署や団体との連携など健康増進としてのスポーツ活動の推進、障がい者のスポーツ活動の充実、総合型地域スポーツクラブの支援などスポーツを通じた地域コミュニティの構築に取り組みます。

教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の考える将来都市像

(地域医療、公立病院、高齢者福祉、乳幼児福祉、障害者福祉分野)

平成 25 年 10 月 31 日

教育・文化スポーツ・福祉・医療部会長 加藤 出

本部会のテーマは、担当分野が広いので、二つに分けて将来都市像を考え、そのうえで部会としての一つの将来都市像を導き出すことにいたしました。

二つ目の分野は、地域医療、公立病院、高齢者福祉、乳幼児福祉、障がい者福祉です。

将来都市像は、「みんなで安心して、いきいき暮らせるまち なかつがわ」です。

1. あるべき姿

子どもからお年寄りまでみんなが健康で、病気になった場合でも医療サービスをしつかりと受けることができ、お年寄りや障がい者が安心していきいきと心豊かに暮らすことができるまち

2. 現状と課題

地域医療では、高齢化や生活習慣病の増加に伴い病気や介護を必要とする人が増えています。保健・医療・福祉・介護が連携した包括ケアの提供が課題です。また、受診の際、大病院志向やコンビニ受診が見られます。かかりつけ医制度の推進が課題です。

公立病院では、常勤医師のいない診療科が発生したり、産科医師の不足から分娩の制限を行っています。医師・看護師など医療スタッフの確保が課題です。また、市内に二つの病院があり、両病院の役割分担の明確化と連携が課題です。

高齢者福祉では、高齢化により 65 歳以上の独居世帯、高齢者世帯、介護が必要な高齢者が増加しており、健康づくりや生きがいづくり、地域での見守りや介護サービスの充実が課題です。

乳幼児福祉では、発達障害の相談が増加しており、発達相談から発達支援までワンストップサービス化が課題です。

障がい者福祉では、高齢化などにより障がい者は増加しており障がい者にサービスを提供できる施設の不足や障がい者が住み慣れた地域で暮らすことができる環境づくりが課題です。

(参考)

アンケート調査では、高齢者支援、乳幼児支援、障がい者支援の必要性は高い方に位置しています。

3. 課題解決に向けた取り組み

地域医療では、健康づくりに取り組む関係機関、団体との連携強化やがん検診・健康診断の受診率向上、保健指導の徹底など健康づくりの支援に取り組むとともに、医療機関の役割分担と連携の推進、地域包括ケアシステムの構築など市民が必要とする医療サービスなどを将来にわたって確保します。

公立病院では、大学、医局などの教育・研究・研修のフィールドを提供するなどして、医療スタッフを確保します。また、市内にある二つの病院の効率的な機能分化を明確にするなど、両病院の役割分担の明確化と連携に取り組めます。

高齢者福祉では、若年期からの生活習慣病予防などの健康づくりや、老人クラブ・シルバー人材センターの支援など高齢者の生きがいづくりを支援します。また見守り支援やボランティアの育成など地域の見守り、在宅支援の充実に取り組めます。

乳幼児福祉では、発達相談支援専門員の資格者育成を長期的に行うなど人材確保に取り組むとともに、発達相談室に相談支援事業所の役割を組み入れサービスのワンストップ化を図ります。

障がい者福祉では、重度障害者を受け入れる施設の整備、障がい者に対する理解を深めてもらう交流機会などを充実し、地域との協働・ボランティアの育成など障がい者が住み慣れた地域で暮らすことのできる環境づくりに取り組めます。

産業部会が考える分野別施策に関する意見書

本意見書は、産業部会において目指す将来都市像と現状とのギャップを埋める意味での課題について、行政にはない、民間ならではの切り口から課題解決の取り組みを審議する過程で出された意見を取りまとめたもので、第1章は産業部会の意見、第2章は産業部会の意見の背景となった意見を記述しています。

第1章 産業部会の意見

○工業振興

工業振興では、中小企業の多くが営業や開発に時間がかけられないことや、大手企業や納入先の企業の経営方針の影響により、経営の安定化や経営基盤の強化を図ることが課題となっていることから、地域産業の振興に取り組むとともに、既存企業が行う開発や新たな業態へのチャレンジに対する支援、市外企業との繋がりづくりに取り組まれない。

また、リニアに関連した企業誘致活動の強化、初期投資に対する支援など起業を促すための土壌づくりや、地域活力の維持のため、地域に根差した事業所の育成など地域産業の振興に取り組むとともに、最先端技術の研究・開発を行うための特区の制度を活用するなど、既存企業や新規立地企業が活動しやすい環境を整備されたい。

○商業振興

商業振興では、来客の減少による後継者不足から中心市街地の空洞化が進行していることが課題となっていることから、新町ビル跡地、にぎわい広場などの活用による商店街活性化の支援を図られたい。

また、中心部と周辺部の商業のありかたを整理し、それぞれの役割にあった支援を図られたい。加えて、さまざまな機会をとらえて中津川市を全国に売り込むなど、リニア開通による観光客誘致や道路整備など中心市街地への誘客に取り組まれたい。

○観光振興

観光振興では、馬籠宿をはじめとする歴史的な街並みや街道文化、栗きんとんをはじめとする和菓子など、観光の素材は沢山あるものの、その素材が十分活かされていないことが課題となっていることから、観光資源を一層魅力的なものにするとともに、体験型観光のための観光商品の開発など、観光資源の発掘や開発、PR、また、観光資源の連携による広域観光に取り組まれたい。

○工業振興・商業振興・観光振興に対する共通意見

行政が行うべきこと、民間が行うべきこと、それぞれの役割を明確にしてこそ課題が見いだせることから、行政と民間で共通認識を持ったうえで課題を整理されたい。

○農業振興

農業振興では、効率的、安定的経営を行うことが困難で、後継者不足や耕作放棄などによる農地の荒廃の抑止や鳥獣害被害の防止が課題となっていることから、集落営農組織の育成支援、ブランド力強化、高付加価値農業による収益の増加、農地の集積と担い手の確保に取り組まれない。

また、農業と他部門が連携した、グリーンツーリズムの取り組みを推進されたい。

○林業振興

林業振興では、木材価格の低迷などによる後継者不足や、森林の境界の明確化と森林の継承がなされず森林整備の遅れが課題となっていることから、東濃ひのきのブランドを活かした産直住宅建築に対する支援や、森林の境界明確化と森林の継承による間伐等の促進に取り組まれない。

○農業・林業に対する共通意見

農業と林業は、後継者を確保できる経営基盤の強化や、農地、森林が持つ多機能性の観点から、いかに農地、森林を守っていくかが共通の課題であることから、農地と森林が持つ多面的機能を活かして、里山整備も含めた当市独自の農業振興モデル地区を設けるなど、農地や森林が作り出す美しい景観を整備・保全するなかで、多様な担い手の育成と確保に取り組まれない。

○移住・定住推進

移住・定住推進では、転出者が転入者を上回り、人口流出に歯止めがかからない状態が続き、市の姿勢も待ちの状態です十分な分析、対応ができていないこと、また、当市の各地域はまとまりが良いことが、新しく入ってくる人にはかえって地域になじみづらく、これを改善することが課題となっていることから、市外で活躍する当市の出身者のネットワークを作り、市外から見た中津川市のあり方への助言・提言をしていただくなど「故郷との絆」づくりを推進し、転入者が地域になじみやすい雰囲気づくりの啓発に取り組まれない。

○全体に対する意見

リニア駅や車両基地が建設されるという千載一遇のチャンス逃さないよう、産業全般の活性化を図り、市外への人口流出を食い止めるとともに、市外から働き手である若者を中心に多くの人が入ってくる環境、つまり当市に住んでみたいという環境づくりに取り組まれない。

第2章 産業部会の意見の背景となった意見

1. 委員の意見

○工業振興

- 地域産業の育成と起業については、地域産業、資源を活用の視点から支援されたい。

○商業振興

- 中心市街地の活性化については、中津川市の玄関口として、行政がやりたいことではなく、民間がやりたいことを引き出すことを考えて取り組まれない。
- 高齢化が進む中で、過疎地のライフラインとして買い物対策を考えられたい。
- リニアを活かした商業については、様々なことに対応できる行政力をつけ、起業の観点から人を呼び寄せる啓発をされたい。
- 中心市街地活性化は、新町ビル跡地やにぎわい広場などを活用して商店街活性化の支援をされたい。

○観光振興

- 大きなイベントは一過性にするのではなく、リピーターができるようなものを実現されたい。
- 観光振興は、企業を利用するなどして考えられたい。
- 美しい渓谷を活用するなど、観光のターゲットを変えることも考慮されたい。

○農業振興

- 農業振興の課題として、農地は観光価値もあり国土保全の役割もあることを意識されたい。
- 「食」と「農」について体験・学習する食農教育にも取り組まれない。
- 農業の6次産業化も踏まえて産業間の連携を図りつつ、農業者が複合的に経営できるよう支援されたい。

○林業振興

- 保育と環境林の整備が遅れているため、森林の多面的機能を高めるための森林の保育に取り組まれない。
- 旧林道が荒れているため、旧林道の整備・拡充及び作業道の整備に取り組まれない。
- 林道の新路線の整備に取り組まれない。

○移住・定住推進

- 行ってみたい・住んでみたい・住み続けたいまちになるよう地域のブランド化を図られたい。
- ユニバーサル・デザインのサービス分野への展開など、社会的弱者に配慮された環境を整え、地域のブランド化を図られたい。

- 高付加価値の就業機会に恵まれるような地域のブランド化を図られたい。
- 未来型の産業立地を目指し、最高の介護、最良の医療が受けられ世界から注目されるような地域のブランド化を図られたい。
- 人口減少に歯止めをかけるには自然動態の対策と社会動態の対策が必要である。自然動態の増加要因の出産、子育て、地元就職の一連の支援を充実させ、加えて社会動態の増加要因の移住（転入）を増やすという切り口が必要であることから、移住・定住の基本的な考え方やあり方について抜本的に考えられたい。
- リニアが開通した際に、ストロー現象が生じないよう対策を講じられたい。
- 仕事ができる場所を作る感覚で、起業誘致に取り組まれたい。

○全体に対する意見

- 人口が必ず増えるという要素がないことも踏まえた対策も講じられたい。
- 周辺部においては農林業だけではなく、複合的なコミュニティ維持の視点も取り入れて産業の育成をされたい。
- 財政状況から見ても与える行政から住民がつくる行政に変わる転換期にあることから、基本構想に自分たちの地域は自分たちで作るという要素を取り入れられたい。

2. 関係諸団体等の意見

○工業振興

- 世界のトップ企業となるリニア関連企業が進出する千載一遇のチャンスを、広域的に官民一体となって施策、方向性を構築することが求められていることから、グローバルな視点から産業構造を見直されたい。
- 各種研究機関の誘致を図られたい。
- リニアの起爆剤として、スマートシティなかつがわ特区に取り組まれたい。
- できる限り住居に近い場所で働ける都市づくりに取り組まれたい。

○商業振興

- 中心市街地が廃れていかないよう、中津川駅とリニア駅とのアクセスを整備されたい。
- 中津川出身の若者が、自分のまちに出店する際の支援に取り組まれたい。
- ネットビジネスや起業教育に取り組まれたい。

○観光振興

- 大きなイベントは一過性にするのではなく、リピーターができるようなものを実現されたい。
- 観光振興は、企業を利用して考えられたい。
- 美しい渓谷を活用するなど、観光のターゲットを変えることも考慮されたい。

- リニアの見える丘公園の建設と、リニア車両工場を活用した産業観光を展開されたい。
- 観光施設の連携、産業観光等のルート開発、地域間の観光連携に取り組まれたい。
- 名所旧跡地の歴史・伝統・施設・名物と人物を充実させ、面白い観光を推進されたい。
- 市が所有する、第三セクターを含む観光施設等の民営化を具体化されたい。
- 市の観光施設が設置されている土地の賃貸借契約を解除されたい。
- 新しい時代にマッチした、魅力ある中津川市をアピールするイベントやシンボルの創造に取り組まれたい。

○農業振興

- 行政・農協・農業委員会が一体となって農業振興を進められたい。
- 都市との農業体験交流等を展開されたい。
- 中津川地域の食糧自給率の低下を防ぐ取り組みをされたい。

○林業振興

- 持続可能な森林づくりと木材の利用循環を推進されたい。

終わりに、産業部会の審議の中で、課題解決のための弊害は行政の縦割りであることが委員共通の認識であり、この縦割りを撤廃し、横の連携で施策に取り組むことが重要であると考えます。このことを行政が十分認識したうえで、次期総合計画実現に向けて取り組まれることを期待します。

防災・環境部会が考える分野別施策に関する意見書

本意見書は、防災・環境部会において目指す将来都市像と現状とのギャップを埋める意味での課題について、行政にはない、民間ならではの発想や専門的見地から課題解決の取り組みを審議する過程で出された意見を取りまとめたもので、第1章は防災・環境部会の意見、第2章は防災・環境部会の意見の背景となった意見を記述しています。

第1章 防災・環境部会の意見

○防災・災害対策

防災・災害対策では、地球温暖化等によるゲリラ豪雨が多発し、恵那山系をはじめ、風化花崗岩の山腹崩壊の発生が危惧されること、また東海、東南海地震が発生した場合に大きな被害が予想され、いかに被害を小さくするかが課題となっていることから、行政・自主防災組織・消防団が連携し、土砂災害のハザードマップを活用するなど災害危険個所の情報共有化に努め、防災士の育成などにより地域の防災力の向上に取り組まれない。

また、災害時要援護者台帳の登録者数が増えないため、登録者を増やしていくことや、住宅耐震化が遅れており、耐震化を進めることが課題となっていることから、災害時要援護者の台帳登録のための啓発など避難対策の強化や、大規模な地震に備え住宅の耐震診断、耐震補強や家具転倒防止などに対する支援や橋梁の耐震化など被害を少しでも小さくするための減災に取り組まれない。

○防犯対策

防犯対策では各地域で空き家、空き店舗が増えてきており、犯罪の温床となったり老朽化して倒壊による危険にどう対処していくかが課題となっていることから、条例等の制度に基づく空き家、空き店舗対策に取り組まれない。

○ごみ・し尿対策

ごみ、し尿対策では、環境センターに持ち込まれるごみの量が増加傾向にあり、減量化、資源化を進めることが課題となっていることから、ごみの資源化・減量化に向けた啓発やPR活動を推進されたい。

また、し尿収集量は、下水道、合併浄化槽の普及により減少しているものの、施設の老朽化や収集・運搬費用が多額であるため、施設と収集・搬入を一体として効率化するとともに安定した稼働を確保することが課題となっていることから、収集から処分までの効率化を図り、新衛生センターなどの施設整備などに取り組まれない。

○自然環境保全

自然環境保全では、希少な植物のデータベースを作成するなどして希少植物をはじめ豊かな自然をしっかりと守っていくことが課題となっていることから、自然環境に関する基礎データの構築を行い、希少な動植物の保護を行うなど美しい自然を守るとともに、計画的な森林整備などさらに磨きをかける取り組みを推進し、観光資源、環境学習、防災機能など多面的な活用ができるよう整備されたい。

○地球温暖化対策・再生可能エネルギー

環境にやさしいエネルギーの活用は全国的な課題であり、当市の急峻な地形と豊富な水量を活用した小水力発電や、間伐材を活用した木質バイオマスの導入が考えられるが、水利権や採算性といった課題があることから、この課題を解決し小水力発電の推進や木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入に取り組まされたい。

○市民活動・地域コミュニティ

市民活動・地域コミュニティでは、地域自治組織の高齢化や人材が不足しており、地域活動を担う人材育成や若者の参加、市民活動団体のネットワーク化などが課題となっていることから、地域自治組織の人材育成のための学習会の実施や若者の参画促進支援など、自治会組織の活性化、市民活動情報の提供や研修機会の提供、団体間の交流促進のコーディネートを行う組織の立ち上げなど市民活動の普及や人材育成、ネットワークづくりに取り組まされたい。

○地域公共交通

地域公共交通では、利用者の減少が路線バスの便数削減や路線廃止につながり、コミュニティバスなどを導入しているが、運送事業者との競合、地域間格差が発生し、地域の高齢者の買い物や受診のための移動手段を確保することが課題となっていることから、運送事業者との役割分担を明確にし、路線バス、コミュニティバス、ボランティア輸送など複数の交通手段による交通空白地を解消し、高齢者などの移動手段の確保に取り組まされたい。

第2章 防災・環境部会の意見の背景となった意見

1. 委員の意見

○災害対策

- 地震などの災害から生命・財産を守る共助に関して、住民間相互の協力や信頼関係の醸成に向けて、消防団をはじめとする知識、技能等を持つ組織や個人と自主防災組織との一層の連携を推進されたい。
- 砂防事業の促進により土砂流出防止を図られたい。
- 水源涵養や生活環境保全のため治山事業を促進されたい。
- 緊急物資の備蓄と地域への配置を図られたい。
- 緊急車両が進入できる道路整備を図られたい。

○防災対策

- 行政・消防・消防団は、災害時における情報収集伝達・警戒避難体制の整備等をより充実させるため、市民とのパートナーシップをより強固にするとともに、自主防災組織に対して訓練指導や減災に関する情報提供など自主防災組織との連携を図られたい。
- 多様な手段を利用した防災情報の配信など、防災無線の整備を推進されたい。
- 消防救急デジタル無線整備など、消防、救急体制の強化を図られたい。
- 一時避難所等の防災機能を強化されたい。
- 消防団の活性化をするなど地域防災の強化を図られたい。
- 学校教育で防災教育を充実されたい。
- 防災ボランティアなどの充実、指導・支援を図られたい。

○防犯対策

- 防犯対策の設備面で、ドアに防犯対策を行うなど外出時の対策の啓発を推進されたい。
- 防犯対策の対策として、ひったくり、スリ、置き引き、車上狙い、振り込め詐欺、悪質商法などの対策の啓発を推進されたい。

○ごみ・し尿対策

- ごみ・し尿施設の役割は、生活基盤整備と環境保存の調和度を高めることであることから、効率化する方策として、流入・流動人口の受け入れにあたっては、あらかじめ生活基盤を整え、集約的に受け入れることを検討されたい。

○自然環境保全

- 森を磨いて活用し、水の付加価値を高め、人を育て次世代につなげ、自然、人、物の現有資源を見直して活用されたい。
- 守る基準となる基礎データを作成し、多様な分野に働きかけて、あらゆる主体と連携協働して自然財産を保全活用されたい。

- 里山林の整備、市民が親しめる川の環境整備を行い、森林散策や環境学習を上下流交流に活用し、自然環境の保全につなげられたい。
- 学校教育での木育などを導入し、「農業、林業、環境」の自然の達人養成講座などを年間事業として展開し人材を育成されたい。
- 行政と民間で連携して中津川の自然財産目録を作成されたい。

○再生可能エネルギー

- 公共施設で薪ボイラーを設置し、民間から薪を買い上げて、将来的には工場、農業分野、家庭に薪ストーブを普及されたい。
- 木質資源の活用は、環境が似た周辺地域の事例を研究し取り組まれたい。
- 小水力・マイクロ水力発電は、東海地方をリードするよう取り組まれたい。

○市民活動

- 市民活動の推進については、市民活動のリーダーの不足を解消し、市民参加を促進していく必要があることから、各組織をコーディネートする組織として中間支援センターを早期に設立し、市民協働で行うまちづくりを推進されたい。

○地域コミュニティ

- 地域自治組織では、地域を担う人材が不足していること、住民の地域自治組織に対して関心が薄いことから、若者の参画推進支援をするなどして地域コミュニティづくりの推進を図られたい。

○地域公共交通

- 地域公共交通では、事業者と連携した利用促進策を推進するなど、公共交通網の体系整備を推進されたい。

2. 関係諸団体等の意見

○自然環境保全

- 本来ここにあり、都会が持ちえない豊かな緑、自然あふれる環境を最大限に活かす「深呼吸できる街、中津川」をめざし、移住・定住需要を喚起されたい。

○市民活動

- ボランティア団体や各種団体間の連携を支援し、各部門のつながりによる活動の共通理解と、それぞれの協力、成果の共有に対する支援を図られたい。
- 市民協働と地域コミュニティの充実を図ることが将来の中津川市を担う地域力となるので、組み合わせとバランスをコーディネートする機関・人の充実を図られたい。

○地域コミュニティ

- 人の組み合わせとバランスで地域コミュニティの充実を図られたい。
- 人のつながりによる地域コミュニティの充実を図られたい。

教育・文化スポーツ・福祉・医療部会が考える

分野別施策に関する意見書

本意見書は、教育・文化スポーツ・福祉・医療部会において目指す将来都市像と現状とのギャップを埋める意味での課題について、行政にはない、民間ならではの発想や専門的見地から課題解決の取り組みを審議する過程で出された意見を取りまとめたもので、第1章は教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の意見、第2章は教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の意見の背景となった意見を記述しています。

第1章 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の意見

○生涯学習

生涯学習では、核家族化や地域におけるつながりの希薄化が進み、家庭教育の低下や地域社会での孤立化が増えてきており、家庭教育の支援や生涯学習活動への参加を高めることが課題となっていることから、社会教育部門と教育委員会が連携したすべての親を対象にした家庭教育支援、妊娠期から学童期までそれぞれの時期に応じた家庭教育支援に取り組まれない。また、地域づくり型生涯学習を推進するため市民をリードしていく人材の育成など生涯学習活動への参加向上に取り組まれない。

○スポーツ振興

スポーツでは、少子化の影響でスポーツ少年団員数が減少するなど子どもたちのスポーツ離れが進んでおり、スポーツの良さや価値を実感できる機会を充実したり、高齢化による健康増進としてのスポーツ活動や、障がい者が楽しく生活するためのスポーツ活動の普及が課題となっていることから、スポーツの楽しさや素晴らしさを実感できるトップアスリートなどによる指導機会の充実など子どもスポーツ活動の推進や、健康福祉関係部署や団体との連携など健康増進としてのスポーツ活動の推進、障がい者のスポーツ活動の充実、総合型地域スポーツクラブの支援などスポーツを通じた地域コミュニティの構築に取り組まれない。

○乳幼児教育

乳幼児教育では、核家族化・共働き世帯の増加により家庭での保育が困難な世帯や未満児保育へのニーズが増えてきており、幼稚園、保育園に子育て支援拠点の機能を充実させることや、公立園と私立園との一層の連携が課題となっていることから、保護者のニーズ把握に努め子育て支援の体制や施設づくりを進めるなど幼稚園、保育園の子育て支援機能を充実させるとともに、民間にできるところは移行し、障がい児保育など公立が担うべきところはしっかりと公立でという機能分担や公立・民間の一層の連携を推進されたい。

また、幼稚園、保育園から小学校に上がった際に環境の変化にとまどったり、なじめな

い児童のため、スムーズな適応を図ることが課題となっていることから、幼・保・小の連携事業の検証を踏まえ全市的な取り組みとするなど、幼稚園、保育園から小学校へのスムーズな適応を図られたい。

○学校教育

学校教育では、基礎学力について家庭学習の重要性の認識が各家庭によって大きく異なっており、家庭における認識度を高めていくことが課題となっていることから、「学力アッププログラム」についてPTAとの連携を深め家庭への啓発に努めるとともに、内容の改善にも努められたい。

○地域医療

地域医療では、高齢化や生活習慣病の増加に伴い病気や介護を必要とする人が増えており、保健・医療・福祉・介護が連携した包括ケアの提供が課題となっていることから、健康づくりに取り組む関係機関、団体との連携強化やがん検診・健康診断の受診率向上、保健指導の徹底など健康づくりの支援に取り組まれない。

また、受診者の大病院志向やコンビニ受診が見られるため、かかりつけ医制度の推進が課題となっていることから、医療機関の役割分担と連携の推進、地域包括ケアシステムの構築など市民が必要とする医療サービスなどを将来にわたって確保されたい。

○公立病院

公立病院では、常勤医師のいない診療科が発生したり、産科医師の不足から分娩の制限が行われ、医師・看護師など医療スタッフの確保が課題となっていることから、大学、医局などの教育・研究・研修のフィールドを提供するなど、医療スタッフの確保を図られたい。また、市内に二つの公立病院の役割分担の明確化と連携が課題となっていることから、二つの病院の効率的な機能分化を明確にするなど、両病院の役割分担の明確化と連携に取り組まれない。

○文化振興・歴史・伝統芸能

文化振興では、少子高齢化の進展などによる文化・芸術活動や伝統芸能活動の後継者不足や、市民の価値観の多様化など伝統芸能への関心低下による活動の停滞が懸念されており、子どものころから文化・芸術、伝統芸能に親しみ学ぶ機会の充実が課題となっていることから、文化を育む人材育成、伝統芸能の伝承教室へのさらなる支援など伝統芸能活動の後継者育成を支援するとともに、地域の魅力を高める資源として保護、活用に取り組まれない。

○少子化対策・子育て支援

少子化・子育て対策では、出生数、年少人口が減少し、核家族化が進んでいることから、安心して子どもを産み育てる環境の更なる整備や、結婚・出産・子育てなど子どもの成長

に合わせた支援を連続してどう行うかが課題となっていることから、妊婦健診、特定不妊治療など安全な妊娠、出産の支援、子どもの健康診査の実施など子どもの健やかな成長発達支援に取り組むとともに、放課後児童クラブの運営支援など子どもたちが放課後安心安全に過ごすことができる居場所づくりの充実に取り組まれない。

○高齢者福祉

高齢者福祉では、高齢化により65歳以上の独居世帯、高齢者世帯、介護が必要な高齢者が増加しており、健康づくりや生きがいづくり、地域での見守りや介護サービスの充実が課題となっていることから、若年期からの生活習慣病予防などの健康づくりや、老人クラブ・シルバー人材センターの支援など高齢者の生きがいづくり、見守り支援やボランティアの育成など地域の見守り、在宅支援の充実に取り組まれない。

○乳幼児福祉

乳幼児福祉では、発達障害の相談が増加しており、発達相談から発達支援までのワンストップサービス化が課題となっていることから、発達相談支援専門員の資格者育成を長期的に行うなど人材確保に取り組むとともに、発達相談室に相談支援事業所の役割を組み入れサービスのワンストップ化に取り組まれない。

○障がい者福祉

障がい者福祉では、高齢化などにより障がい者が増加しており、障がい者にサービスを提供できる施設の不足や、障がい者が住み慣れた地域で暮らすことができる環境づくりが課題となっていることから、重度障害者を受け入れる施設の整備、障がい者に対する理解を深めてもらう交流機会などを充実し、地域との協働・ボランティアの育成など障がい者が住み慣れた地域で暮らすことのできる環境づくりに取り組まれない。

第2章 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の意見の背景となった意見

1. 委員の意見

○生涯学習

- 家庭教育は、市長部局と教育委員会が連携して取り組まれない。
- 公民館図書や学校図書を充実するとともに、公民館図書室と中央図書館の連携を図りたい。
- 読書による人づくり、地域で活躍する人づくりや出番づくりなど、生涯にわたり学び続けることができる教育環境づくりを推進されたい。
- 地域に誇りを持ち郷土愛のある市民の育成を推進されたい。

○スポーツ振興

- 1 市民 1 スポーツを推進されたい。
- 医療費の抑制の面からも、高齢者の軽スポーツ普及の環境を整備されたい。
- 健康増進、コミュニティづくりの場を整備されたい。

○国際交流

- 民間で行われている交流を把握、集積されたい。

○乳幼児教育

- 地域によっては幼保一元化の先取りを検討されたい。

○学校教育

- 学校規模の適正化を推進されたい。
- 過疎地域の小学校がなくなると過疎化が一気に進むので、過疎化対策と子どもの教育力の両立を図られたい。

○教育に対する意見

- 子育てや教育に対しビジョン形成をされたい。
- 子育てや教育論を財政面から入らないようにされたい。

○地域医療

- 一次医療の役割と責務、二次医療の役割と責務を市民に対して啓発されたい。

○公立病院

- 2つの公立病院はホールディングカンパニーの例も参考にされたい。
- 公立病院は、二次医療の役割を果たしつつ、更なる高度医療化を推進されたい。

○文化振興・歴史・伝統芸能

- 中津川市は素晴らしい芸術家を輩出しているので、セキュリティのいい総合的な美術館を建設されたい。
- 国の重要文化財である赤壁城（苗木城）を復元されたい。

○少子化対策

- 幼少時より家庭教育、学校教育、社会教育の充実を図り、地域ぐるみの人材育成を行い、若者に魅力のあるまちづくりを推進されたい。
- 年長者・高齢者から若者への歴史・文化の伝承や若者が集う場の充実、社会教育の充実による心豊かな若者の育成、自尊感情の構築を目指して結婚に結びつけ、若者が住みたくなるまちづくりを図られたい。

○子育て支援

- 将来のまちづくりの原動力となる子ども達を心豊かに育てていくため、成長段階に応じた子育て・教育環境の整備を推進されたい。
- 家庭に負担のかからない子育て対策を、福祉の面から考慮されたい。
- 子どもの成長や地域の実情に応じた子育て支援に努め、安心して子育てができる環境整備と共に、少人数指導や個別指導の充実により、児童・生徒の基礎学力の向上を図るような、中津川らしさが出せる教育の推進を図られたい。

○高齢者福祉

- 高齢者の生きがいづくりは、地域の特性を生かし、公民館を拠点に推進されたい。
- 地域の教育を通して子育てから高齢者福祉まで一貫してつながる取り組みを、行政内部で連携して取り組まれたい。
- 地域の見守りと在宅支援を地域コミュニティで実施する体制と組織づくりを推進されたい。

○福祉に関する意見

- 次世代を担う子どもたちが健やかに育ち、高齢者も障がいのある人も生きがいを感じるまちを目指されたい。
- 全ての人々が将来にわたる健康を意識し心豊かに生きいきと暮らすことのできるまちを目指し、認め合い支え合う社会への理解をさらに深められたい。
- 地域に根差した健康医療・福祉体制の充実、整備を推進されたい。

2. 関係諸団体等の意見

○スポーツ振興

- 各競技団体の競技力の向上を支援されたい。
- 東京オリンピックを見据えて、若年層の選手力の強化を支援されたい。

- 障がい者スポーツの取り組みを向上させるとともに、障がい者が運動に取り組むことができる施設を整備されたい。
- 東京オリンピックキャンプ地の誘致を図られたい。

○乳幼児教育

- 公立園と私立園の果たすべき役割を理解して、幼保間の公費負担格差解消、利用者負担格差是正、公立幼稚園・公立保育園の統廃合、市内各幼稚園・保育園の適正配置を図られたい。

○学校教育

- 確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成するため、特別な支援を必要とする児童・生徒の増加を見込んだ人材確保と支援体制を一層推進されたい。
- 学校施設の防災上の安全や避難所施設としての機能充実のため、設備の充実と見直しを図られたい。
- IT教育、国際理解教育、ボランティア、平和教育、命の教育の充実を図られたい。

○文化振興

- 文化や趣味が多種多様であるため、市民が自分に合った拠点を利用して文化を享受できるよう、いくつかの拠点を整備されたい。

○高齢者福祉

- 快適な老後が過ごせる高付加価値サービスや最高の介護、最良の医療が受けられる未来型の産業立地を目指されたい。

○障がい者福祉

- 社会的弱者に配慮された環境整備を推進されたい。

基本構想の骨子案

1. 中津川市の将来都市像

将来都市像のキャッチフレーズ

かがやく人々 やすらげる自然 活気あふれる中津川

2. めざすまちの姿

(1) 美しい景観に囲まれ 活気あふれるまち なかつがわ（産業）

市内企業は経営規模が拡大し、新たな企業の進出や起業により若者が働く場所が多くあり、当市で育った若者が市内にとどまってくれる、市外からも若者がきてくれて活気がある。また、農林業の後継者がしっかり確保され、田園や森林の美しい景観が保たれている。美しい景観が保たれていることで観光振興にもつながり、中津川市ならではのものを目当てに多くの観光客が訪れ、当市の顔である中心市街地がにぎわっている。

すなわち、

～美しい自然はそのままに、さまざまな人や企業、それらと一緒に知識・技術や情報などが集まってきてにぎわいがあるイメージ～

(2) 水・緑・人が輝く活気に満ちたまち なかつがわ（防災・環境）

美しい自然がしっかりと守られ活用されていて、再生可能エネルギーの活用やごみの資源化など地球環境にやさしい取り組みがなされおり、そんな環境の中で、災害への備えも行き届いていて、市民活動や地域コミュニティの活動が活発で、いきいきと暮らすことができる。

すなわち、

～美しい自然に囲まれ、人々が安心していきいきと地域で活躍していて、活気に満ちたイメージ～

(3) 多くの子どもたちがたくましく育ち

夢あるまち なかつがわ（教育・文化スポーツ）

将来を担う子どもたちが減ってしまうことなく、学校生活などや地域で勉強やスポーツを通じてたくましく、しっかりと自立した若者に育っている。その若者が地域において当市の伝統や文化をしっかりと守り、引き継いでいってくれる。

すなわち、

～多くの子どもたちが、頼りになる若者として育ち、地域の伝統芸能などの文化をしっかりと守り盛んにし、地域に活力があるイメージ～

（４）みんなで安心して いきいき暮らせるまち なかつがわ（福祉・医療）

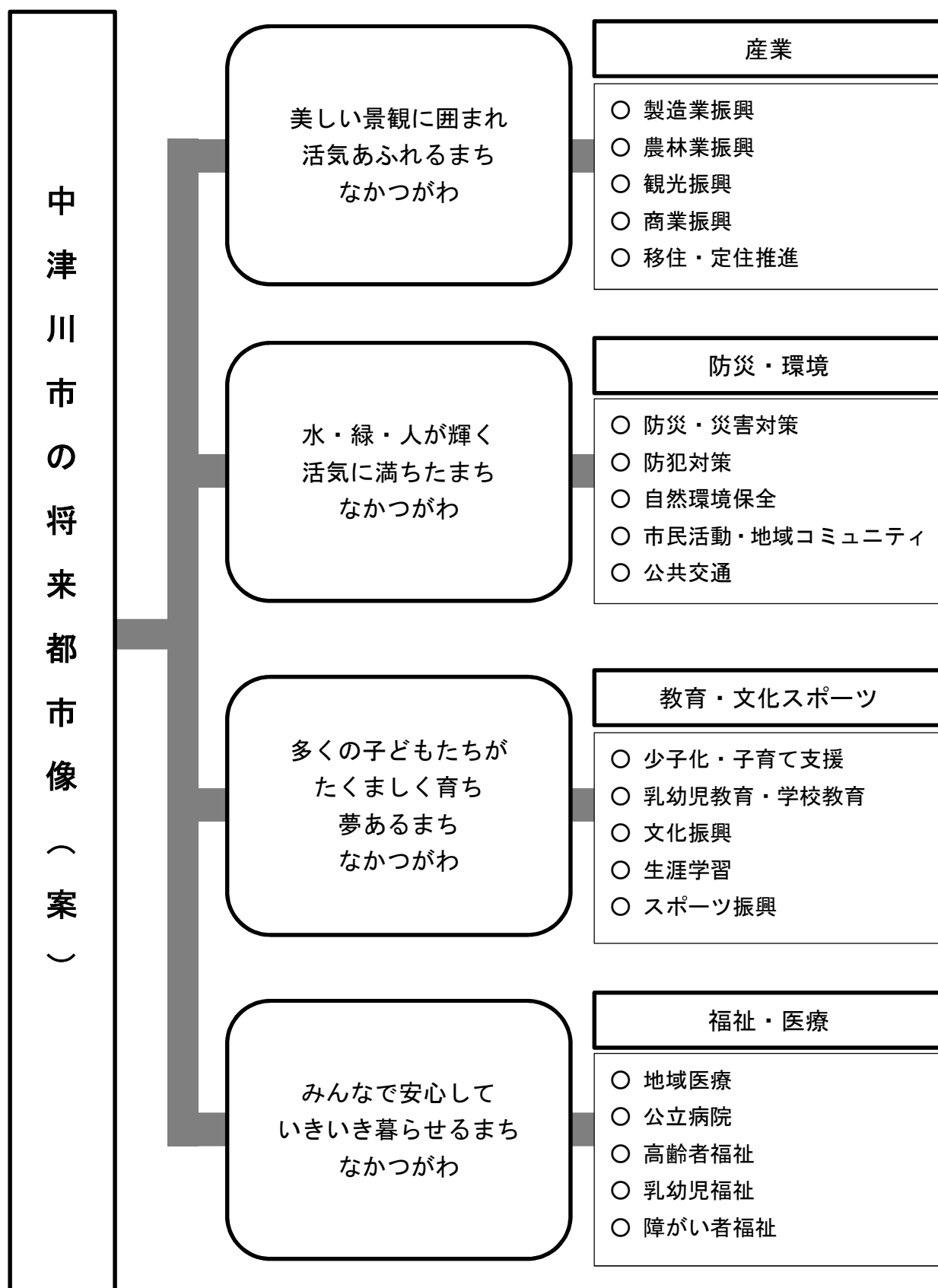
子どもからお年寄りまでみんなが健康で、病気になった場合でも医療サービスをしっかりと受けることができ、お年寄りや障がい者が安心していきいきと心豊かに暮らすことができる。

すなわち、

～子どもからお年寄りまで、すべての人が安心していきいきと暮らしていて、心豊かな開かれたイメージ～

～年齢や健康状態、障がいの有無にかかわらず、だれもが安心して地域でいきいきと暮らしていて、心豊かなイメージ～

3. 基本構想の体系図



4. 分野別施策の体系

(1) 美しい景観に囲まれ 活気あふれるまち なかつがわ（産業）

○製造業振興

地域産業の振興に取り組むとともに、既存企業が行う開発や新たな業態へのチャレンジに対する支援、市外企業との繋がりづくりなどリニアに関連した企業誘致活動の強化、初期投資に対する支援など起業を促すための土壌づくりに取り組みます。

○農林業振興

集落営農組織の育成支援、ブランド力強化など農地の集積と担い手の確保や産業間の連携を図りつつ、東濃ひのきのブランドを活かした産直住宅建築に対する支援や森林の境界明確化による間伐等の促進、里山整備も含めた当市独自の農業振興モデル地区を設けるなど農地や森林が作り出す美しい景観を整備する観点からもその保全に取り組みます。

○観光振興

体験型観光のための観光商品の開発など観光資源の発掘や開発、PRに取り組むとともに、観光資源の連携による広域観光に取り組みます。

○商業振興

中心市街地活性化のための公共施設の活用などによる商店街活性化の支援に取り組むとともに、周辺地域においてはコミュニティ維持のための商業振興に取り組みます。

また、さまざまな機会をとらえて中津川市を全国に売り込むなどリニア開通による観光客誘致や道路整備など中心市街地への誘客に取り組みます。

○移住・定住推進

市外へ出て行ってしまった人のネットワークを作り、市外から見た中津川市のあり方への助言・提言をしていただくなど「故郷との絆」づくりに取り組みます。

また、転入された人が地域になじみやすい雰囲気づくりの啓発に取り組みます。

市外から見て魅力のある安心して生活ができるような住環境の整備や地域に根差した特色ある事業所の育成など未来型産業の振興などに取り組みます。

（２）水・緑・人が輝く活気に満ちたまち なかつがわ（防災・環境）

○防災・災害対策

行政・自主防災組織・消防団の連携により、土砂災害のハザードマップを活用するなど災害危険個所の情報共有化に努め、防災士の育成などにより地域の防災力の向上に取り組みます。

また、災害時要援護者の台帳登録をしてもらうための啓発など避難対策の強化や大規模な地震に備え、住宅の耐震診断、耐震補強や家具転倒防止などに対する支援や橋梁の耐震化など被害を少しでも小さくするための減災に取り組みます。

○防犯対策

条例等の法制度に基づく空き家、空き店舗対策に取り組みます。

○自然環境保全

当市の自然環境に関する基礎データの構築を行い、希少な動植物の保護を行うなど当市の美しい自然を守るとともに、計画的な森林整備などさらに磨きをかける取り組みを進め、観光資源、環境学習、防災機能など多面的な活用ができるようにします。

小水力発電の推進や木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入に取り組みます。

ごみの資源化・減量化に向けた啓発やPR活動、収集から処分までの効率化を図り、新衛生センターなどの施設整備などに取り組みます。

○市民活動・地域コミュニティ

地域自治組織の人材育成のための学習会の実施や若者の参画促進支援など自治会組織の活性化、市民活動情報の提供や研修機会の提供、団体間の交流促進のコーディネートを行う組織の立ち上げなど市民活動の普及や人材育成、ネットワークづくりに取り組みます。

○地域公共交通

運送事業者との役割分担を明確にし、路線バス、コミュニティバス、ボランティア輸送など複数の交通手段による交通空白地を解消し、高齢者などの移動手段の確保に取り組みます。

(3) 多くの子どもたちがたくましく育ち 夢あるまち なかつがわ (教育・文化スポーツ)

○少子化・子育て支援

妊婦健診、特定不妊治療など安全な妊娠、出産の支援、子どもの健康診査の実施など子どもの健やかな成長発達支援、放課後児童クラブの運営支援など子どもたちが放課後安心安全に過ごすことができる居場所づくりの充実に取り組みます。

○乳幼児教育・学校教育

幼児教育において、保護者のニーズ把握に努め子育て支援の体制や施設づくりを進めるなど幼稚園、保育園の子育て支援機能を充実させるとともに、民間にできるところは移行し、障がい児保育など公立が担うべきところはしっかりと公立でという機能分担や公立・民間の一層の連携を進めます。

また、モデル地区を設けて幼・保・小の連携事業を行っており、検証を踏まえ全市的な取り組みとするなど幼稚園、保育園から小学校へのスムーズな適応が図れるようにします。「学力アッププログラム」ではPTAとの連携を深め家庭への啓発に努めるとともに、内容の改善にも努めます。

○文化振興

文化を育む人材育成、伝統芸能の伝承教室へのさらなる支援など伝統芸能活動の後継者育成を支援するとともに、地域の魅力を高める資源として保護、活用します。

○生涯学習

社会教育部門と教育委員会が連携したすべての親を対象にした家庭教育支援、妊娠期から学童期までそれぞれの時期に応じた家庭教育支援に取り組みます。地域づくり型生涯学習を推進するため市民をリードしていく人材の育成など生涯学習活動への参加を高めます。

○スポーツ振興

スポーツの楽しさや素晴らしさを実感できるトップアスリートなどによる指導機会の充実など子どもスポーツ活動の推進や、健康福祉関係部署や団体との連携など健康増進としてのスポーツ活動の推進、障がい者のスポーツ活動の充実、総合型地域スポーツクラブの支援などスポーツを通じた地域コミュニティの構築に取り組みます。

（４）みんなで安心して、いきいき暮らせるまち なかつがわ（福祉・医療）

○地域医療

健康づくりに取り組む関係機関、団体との連携強化やがん検診・健康診断の受診率向上、保健指導の徹底など健康づくりの支援に取り組むとともに、医療機関の役割分担と連携の推進、地域包括ケアシステムの構築など市民が必要とする医療サービスなどを将来にわたって確保します。

○公立病院

大学、医局などの教育・研究・研修のフィールドを提供するなどして、医療スタッフを確保します。

また、市内にある二つの病院の効率的な機能分化を明確にするなど、両病院の役割分担の明確化と連携に取り組めます。

○高齢者福祉

若年期からの生活習慣病予防などの健康づくりや、老人クラブ・シルバー人材センターの支援など高齢者の生きがいを支援します。

また見守り支援やボランティアの育成など地域の見守り、在宅支援の充実に取り組めます。

○乳幼児福祉

発達相談支援専門員の資格者育成を長期的に行うなど人材確保に取り組むとともに、発達相談室に相談支援事業所の役割を組み入れサービスのワンストップ化を図ります。

○障がい者福祉

重度障害者を受け入れる施設の整備、障がい者に対する理解を深めてもらう交流機会などを充実し、地域との協働・ボランティアの育成など障がい者が住み慣れた地域で暮らすことのできる環境づくりに取り組めます。